

令和7年度 保育内容等の自己評価（結果公表）

はじめに

保育士による自己評価は、自らの保育実践を振り返り、保育の質の向上につなげることを目的として実施するものである。日々の保育を見直し、良好な点や課題を明確にすることで、子ども一人ひとりに寄り添った保育の実現を目指している。

令和7年度の自己評価は、保育内容および園運営に関する7分類18項目、計211設問について実施した。対象者は、常勤保育士17名、非常勤保育士3名の計20名である。

集計結果全体では、「はい」の回答が3,719件（88.13%）、「いいえ」が55件

（1.30%）、「どちらともいえない」が446件（10.57%）であり、多くの項目で高い自己評価が得られた。一方で、一部の項目では「どちらともいえない」の割合が高く、職員間の理解や経験の差、専門性に対する課題も見られた。

1 保育の理念・保育観

本項目では、「はい」の回答が313件（92.06%）となっており、保育理念や保育観について、職員の理解が概ね共有されていることが確認できた。

子ども一人ひとりを尊重し、安心できる環境の中で主体性を育むという本園の基本的な考え方が、日々の保育実践の中に浸透していることがうかがえる。

一方で、「どちらともいえない」が22件（6.47%）見られたことから、理念を実際の保育にどのように反映させるかについて、職員間で理解の差が存在していることも考えられる。今後は、理念に基づく具体的な保育実践を共有しながら、さらに理解を深めていく必要がある。

2-1 保育計画・指導計画

本項目では、「はい」が197件（82.08%）と、他項目と比較するとやや低い結果となった。また、「どちらともいえない」が39件（16.25%）と高い割合を占めている。

このことから、保育計画や指導計画の意図を十分に理解し、日々の保育実践へ結びつけることに難しさを感じている職員が一定数存在していることがうかがえる。

一方で、子どもの姿や発達を踏まえながら計画を作成しようとする意識は高まっており、計画と実践を関連付けようとする姿勢も見られている。今後は、記録と計画の連動をより明確にし、職員間で共有しやすい体制づくりを進めていく必要がある。

2-2 乳児保育

本項目では、「はい」が288件（96.00%）と高く、乳児一人ひとりの生活リズムや発達に応じた丁寧な関わりが行われていることが確認できた。

特に、愛着形成を意識した関わりや、安心できる環境づくりについて、職員の意識が高いことがうかがえる。

一方で、「どちらともいえない」が12件（4.00%）見られたことから、個別対応や援

助方法については、今後も継続的な学びと実践共有が必要である。

2-3 3歳未満児保育（1・2歳児保育）

本項目では、「はい」が288件（96.00%）と高い割合を示しており、発達段階に応じた援助や生活習慣の形成を大切にした保育が実践されていることがうかがえる。

また、子どもの気持ちを受け止めながら、自発性を大切にした関わりが行われている点も、本園の特徴として挙げられる。

一方で、「どちらともいえない」が12件（4.00%）見られたことから、対応方法の共有や職員間の連携をさらに深めていく必要がある。

2-（4）-ア 基本的事項

本項目では、「はい」が174件（96.67%）となっており、子どもの健康状態や生活リズムを把握しながら、家庭的で落ち着いた環境づくりを意識した保育が行われていることが確認できた。

一方で、「どちらともいえない」が12件（2.78%）見られており、子どもや保護者への関わり方について、より丁寧な配慮が求められている。

2-（4）-イ 健康

本項目では、「はい」が218件（90.83%）となっており、日常的な健康観察や衛生管理については概ね適切に実施されていることが確認できた。

しかし、「どちらともいえない」が17件（7.08%）存在しており、緊急時対応や健康管理に対する判断基準について、不安を感じている職員も見られる。

今後は、健康管理マニュアルの再確認や、実践的な研修を通じて、全職員が同じ基準で対応できる体制づくりが必要である。

2-（4）-ウ 人間関係

本項目では、「はい」が165件（91.67%）となっており、子ども同士や職員との温かな関係づくりが行われていることがうかがえる。

子どもの思いを受け止めながら、人との関わりを丁寧に育もうとする姿勢が定着していることが評価できる。

一方で、「どちらともいえない」が15件（8.33%）見られ、個別配慮やトラブル時の援助方法については、今後も具体的な事例共有を進める必要がある。

2-（4）-エ 環境

本項目では、「はい」が128件（80.00%）と、比較的低い結果となった。また、「どちらともいえない」が31件（19.38%）と高く、環境構成に対する理解や実践に差があることがうかがえる。

保育環境は、子どもの主体的な遊びや活動を支える重要な要素であり、職員全体で環境構成の意図を共有していく必要がある。

今後は、保育室環境や玩具配置の見直しを継続的に行い、子どもが安心して主体的に遊

べる環境づくりを進めていきたい。

2-（4）-オ 言葉

本項目では、「はい」が 205 件（93.18%）となっており、子どもの言葉や思いに丁寧に耳を傾けながら、安心して表現できる環境づくりが行われていることが確認できた。

また、絵本の読み聞かせや会話を通じて、言語発達を支援しようとする姿勢も見られている。

一方で、「どちらともいえない」が 15 件（6.82%）と比較的高く、発達段階に応じた言葉掛けについては、さらに学びを深める必要がある。

2-（4）-カ 表現

本項目では、「はい」が 176 件（88.00%）となっており、制作活動や音楽活動などを通して、子どもの表現を大切にした保育が行われていることがうかがえる。

しかし、「どちらともいえない」が 21 件（10.50%）見られ、表現活動への援助方法や活動展開について、職員による経験差が存在していることも考えられる。

今後は、子どもの自由な発想を尊重しながら、創造性を引き出せる保育について学びを深めていく必要がある。

2-5 特別な配慮や支援を必要とする子どもの保育

本項目では、「はい」が 185 件（77.08%）と、全体の中でも低い割合となった。また、「どちらともいえない」が 49 件（20.42%）と高く、職員が支援に対して不安や難しさを感じている状況がうかがえる。

特別な支援を必要とする子どもへの対応については、専門的知識や個別支援の視点が求められることから、今後も外部専門機関との連携やケース検討会議を充実させる必要がある。

すべての職員が共通理解を持ちながら安心して支援に関われるよう、園内研修の充実も重要な課題である。

2-6 行事

本項目では、「はい」が 182 件（91.00%）となっており、子どもの成長や日常保育とのつながりを意識した行事運営が行われていることが確認できた。

一方で、「どちらともいえない」が 16 件（8.00%）見られ、行事準備や運営への負担感を感じる職員も存在している。

今後は、行事の目的や必要性を改めて見直しながら、子ども主体の行事運営を継続していく必要がある。

2-7 延長保育・一時保育

本項目では、「はい」が 185 件（92.50%）と高い割合を示しており、延長保育や一時保育においても、安心して過ごせる環境づくりが行われていることが確認できた。

一方で、「どちらともいえない」が 15 件（7.50%）見られ、担当外職員への情報共有

や理解促進については、今後も継続して取り組む必要がある。

3 保健活動・安全管理

本項目では、「はい」が 260 件（92.86%）となっており、衛生管理や安全対策について高い意識を持って取り組んでいることが確認できた。

しかし、「どちらともいえない」が 19 件（6.79%）見られ、災害時対応や緊急時対応への不安も一部存在している。

今後は、避難訓練や事故対応訓練を実践的に実施し、危機管理体制の強化を図っていく必要がある。

4 保護者・地域・関係機関との連携

本項目では、「はい」が 277 件（81.47%）となっており、保護者との信頼関係づくりについては概ね良好な評価となった。

一方で、「どちらともいえない」が 51 件（15.00%）と高く、地域や関係機関との連携については、職員によって関わり方や意識に差が見られる。

今後は、地域交流活動や世代間交流、関係機関との情報共有を通して、園全体で連携の意義を再確認していく必要がある。

5 地域の子育て支援

本項目では、「はい」が 100 件（71.43%）と、全項目中最も低い結果となった。また、「どちらともいえない」が 34 件（24.29%）と高い割合を占めている。

地域支援活動については、一部職員に役割が偏る傾向があり、全体として共通理解が十分とは言えない状況が見られた。

しかし、地域交流活動、子育て相談など、地域に開かれた保育園としての取り組みは徐々に広がっている。

今後は、地域の子育て支援を園全体の役割として捉え、継続的かつ計画的な支援体制を構築していく必要がある。

6 保育園の職務・役割分担

本項目では、「はい」が 198 件（89.55%）となっており、職務や役割分担については概ね整理されていることが確認できた。

一方で、「どちらともいえない」が 21 件（9.55%）見られ、業務量の偏りや役割の曖昧さを感じている職員も存在している。

今後は、職員間の協力体制をさらに強化し、実態に応じた柔軟な役割分担を行っていく必要がある。

7 保育士としての資質向上

本項目では、「はい」が 181 件（75.42%）となっており、研修参加や自己研鑽への意識はあるものの、十分な学びの機会を確保できていない現状も見られた。

また、「どちらともいえない」が 52 件（21.67%）と高く、保育士としての専門性向上

に対する課題意識が表れている。

今後は、外部研修への参加促進や園内研修の体系化を進めるとともに、職員同士が学び合える環境づくりをさらに充実させていく必要がある。

園長総評

令和7年度の自己評価結果においては、全体として「はい」の回答が88.13%となり、多くの項目で高い自己評価が得られた。特に、「乳児保育」「3歳未満児保育」「延長保育・一時預かり保育」など、子どもの日常生活に直接関わる項目において高い評価が見られ、職員が子ども一人ひとりに丁寧に向き合いながら保育を実践している様子がうかがえた。

また、「保育の理念・保育観」についても高い割合を維持しており、本園が大切にしている保育理念が、日々の実践の中に一定程度浸透していることが確認できた。

一方で、「保育計画・指導計画」「特別な配慮を必要とする子どもの保育」「地域の子育て支援」「保育士としての資質向上」などの項目では、「どちらともいえない」の割合が比較的高く、職員が不安や課題意識を抱えている状況も明らかとなった。

特に、「地域の子育て支援」は最も低い結果となっており、地域支援の役割や意義について、園全体としてさらに理解を深めていく必要がある。また、保育の専門性が求められる支援保育や人材育成については、個人の努力だけではなく、組織として支える体制づくりが重要である。

今後は、本評価結果を踏まえ、理念と実践を結びつけながら、職員同士が学び合い、支え合える園づくりを進めていきたい。また、地域とのつながりや関係機関との連携をさらに深め、保育園として地域社会に貢献できる取り組みを継続していく必要がある。

本評価を通して見えてきた成果と課題を真摯に受け止め、全職員が共通理解のもと、より豊かな保育環境の実現に向けて継続的に取り組んでいきたい。

「保育内容等の自己評価」のためのチェックリスト（保育士編）

2025年度

氏名

桜川保育園

1 保育の理念・保育観

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
1-1	あなたは全ての子どもについて、一人ひとりの存在と人権を尊重していますか。			
1-2	児童福祉法の理念に基づき、子どもの最善の利益を考慮して、子どもの生活と健全な発達を保障することが保育園の必要な使命だと理解していますか。			
1-3	あなたは、日頃から「保育所保育指針」をよく読み、その理念を理解した上で、保育内容や保育方法を考えるときのガイドラインとしていますか。			
1-4	あなたの保育が、子どもの生涯の基礎を培う極めて大切な役割を担っていると認識して保育していますか。			
1-5	あなたは、保育所保育は養護と教育が一体となっていて行われている、ということを意識して保育していますか。			
1-6	今日の保育園には、入園している子どもの保育だけでなく、広く地域の子育て支援をする社会的役割があることを認識していますか。			
1-7	あなたは、子どもに文化や生活習慣、考え方が多様であることを知らせ、それらを尊重する心を育てるよう努めていますか。			
1-8	子どもの性差や個人差にも留意しながら、固定的な性別役割分業意識を植え付けることのないように配慮していますか。			
1-9	あなたは、日頃から、子どもに身体的苦痛を与えたり、人格を辱めるなど精神的苦痛を与えることがないようにしていますか。			
1-10	あなたは、個人情報の保護に配慮し、子どもやその家庭についての秘密を正当な理由なく漏らすことがないようにしていますか。			
1-11	あなたは、「子ども・子育て応援プラン」に、若者の就労支援や男性の子育て参加等が盛り込まれていることを知っていますか。			
1-12	様々な特徴を持つ子も持たない子も、一人ひとりのありのままの姿を受けとめ、すべての子どもが健やかに成長することを願って保育をしていますか。			
1-13	育児の考え方について保護者とあなたが食い違っているとき、先ず相手の気持ちを受けとめ、話し合いその保護者の立場や考え方を理解するよう努めていますか。			
1-14	子どもの家庭状況は多様だという考えの上で、今、その子に何が必要かを見極め、それぞれにとって適切な援助をしていますか。			
1-15	子どもが熱中しているときは、その時の保育の内容や流れに変更が生じて、危険のない限りその活動を見守るなどの柔軟性を持っていますか。			

1-16	あなたは、子どもと一緒に思い切り体を動かして遊ぶことの重要性を理解し、楽しんでいますか。			
1-17	あなたは、一人ひとりの子どもに目が行き届いていたか振り返り、これからの保育の課題を見つけることができますか。			
合計 17 項目		0	0	0

2 保育の内容

(1) 保育計画・指導計画（正職・嘱託）

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
2-1	あなたは、指導計画を作成するとき、「保育所保育指針」を読み参考にしていますか。			
2-2	あなたは、保育園の方針である保育計画をもとにして、指導計画を作成していますか。			
2-3	保育には指導計画（年・月・週・日案など）の作成という、あらかじめ見通しを持った計画性が必要だと思いますか。			
2-4	あなたの月・週案などには、教育的側面（五領域の視点）だけでなく、養護的側面（基礎的事項）もしっかりと盛り込まれていますか。			
2-5	あなたは、指導計画を作成するときに、地域の実態や保護者の意向・希望などを考慮していますか。			
2-6	子ども一人ひとりの発達の姿や興味の対象の実態を把握して、月・週・日案などを作成していますか。			
2-7	あなたの月・週・日案などには、子どもの意欲を誘う環境構成が十分工夫されていますか。			
2-8	複数担任の場合、よく話し合ってお互いの考えを十分に理解した上で、月・週・日案などを立てていますか。			
2-9	園の保育理念や方針・目標、あなたの作成した年案、月案、週案、日案などのねらいや内容を、保護者に分かるように説明できますか。			
2-10	あなたは、季節感や日本の伝統的な行事などを指導計画のなかに取り入れるようにしていますか。			
2-11	月・週・日案などが、実際の子どもの姿、興味・関心に合っていたかという視点から自分の保育を評価・反省していますか。			
2-12	月1回以上、自分自身の指導計画の点検・評価を行い、その結果を次の指導計画に生かしていますか。			
合計 12 項目		0	0	0

(2) 乳児保育

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
2-13	あなたは、一人ひとりの子どもの出生時の状況、その後の発育・発達など、生育歴を細かに把握するとともに、保護者の状況などの背景も理解していますか。			
2-14	哺乳瓶の消毒、調乳、沐浴の仕方など基本的な事柄や、子ども一人ひとりの健康状態などを、随時職員相互で確認し合っていますか。			
2-15	授乳について、その子が欲しがるときにやさしく抱いて微笑みかけ、ゆったりと飲ませていますか。			
2-16	離乳食は、家庭と連携をとりながら、一人ひとりの育ち具合やその日の体調に合うように工夫していますか。			
2-17	その子にとって初めての食品を食べさせたときは、皮膚や便性などに異常がないか観察していますか。			
2-18	おむつ交換は「きもちいいね」などとやさしく声をかけたり、マッサージしたりして、排便の回数、便性を把握して臀部を清拭していますか。			
2-19	赤ちゃんの目の動き、泣き声、しぐさ、片言をメッセージとして受け止め、ほほえみ、要求に応じる言葉をやさしく返していますか。			
2-20	子どもを外気に触れさせたり、適度な戸外遊びをさせたりして、健康増進をはかるようにしていますか。			
2-21	喃語には、ゆったりと応えたり、やさしく話しかけたりして、発語の意欲を育てていますか。			
2-22	絵本を見せながら、その子の指さすものに答えたり、やさしい言葉を添えたりして、あなた自らもそのやり取りを楽しむことができますか。			
2-23	あなたがどんな状態にあるときにでも、赤ちゃんの笑顔やしぐさをかわいいと感じることができますか。			
2-24	あなたは、自分の服装の色合い、頭髮・爪などの清潔や、室内の清掃にも配慮していますか。			
2-25	寝返りができない乳児を寝かせる場合には、仰向けに寝かせるようにするとともに、睡眠中の姿勢、かけぶとん、呼吸等の確認をしていますか。			
2-26	一人ひとりの生活リズムや欲求、その日の体調等を把握した上で、睡眠の時間を調節したりする柔軟性を持ち合わせていますか。			
2-27	連絡帳を活用するなどして、保育園以外での子どもの様子も把握するように努めていますか。			
合 計 15 項 目		0	0	0

(3) 3歳未満児保育(1・2歳児保育)

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
2-28	大勢の子どもを保育するときでも、あなたを独占したがるその子の気持ちも十分に満たすなど子どもの背景に配慮しながら、個別対応の努力や工夫ができていますか。			
2-29	「できない、やって!」と甘えてくるときは、その都度、その子の気持ちを受け止め、一人ひとりの発達に応じて要求を満たす援助をしていますか。			
2-30	あなたは子どもの「これなーに?」、「どうして?」などの繰り返しの質問に、忙しいときでもできるだけその都度応えようとしていますか。			
2-31	探索活動が十分行えるよう、安全にはよく気を配りつつ、環境を整えたうえで、子どもが要求する行動を容認できますか。			
2-32	着替えや食事などの時には、その子に応じた手助けやことばかけをしながら、時間を要しても自分からしようとする気持ちを大切にしていますか。			
2-33	食べ物をこぼしたり汚したりしながらも、子どもが自分で食べる意欲を育てるために、楽しい雰囲気ですることができることを第一に考えていますか。			
2-34	子どもがおもちゃの取り扱いなどでぶつかり合うとき、危険のないよう配慮しつつ、子どもの発達の程度や心の動きを考えながら、しばらく見守ることができますか。			
2-35	「おや、何だろう?」、「これで遊ぼう」と好奇心や興味を引き起こす材料や素材、場を用意する心配りをしていますか。			
2-36	散歩の時、保育者も一緒に楽しみながら、花や葉、虫や動物などを見つけたりして、子どもとともに自然物や動物への興味・関心を持つことを大切にしていますか。			
2-37	子どもと会話をするときに、その子の目線に合わせて話をゆっくり聞いて、子どもの話したい気持ちや伝わった喜びを共感していますか。			
2-38	あなたは、自分の表情に配慮しながら、子どもにわかるように、ゆっくり、はっきり、おだやかに、具体的な短い言葉で語りかけていますか。			
2-39	子どもに「絵本を読んで」、「遊んで」と言われた時に、場面に応じて「待って」と言った場合にも、その理由を伝え、その子の気持ちに応えていますか。			
2-40	歌を歌ったり、リズムにのって体を動かすとき、あなたは歌や動きを子どもに合わせ、一緒に楽しむことができますか。			
2-41	わがままで「いやだ」という子どもの内面に配慮しながら、その子の気持ちを肯定的な方向に向けるようにしていますか。			
2-42	自分の思いどおりにならず、おこったり泣いたりする子どもに対して、ていねいに話してきかせたり、気持ちを切り替える時間を取り、ゆったりと待つことができますか。			
合 計 15 項 目		0	0	0

(4) 3歳以上児保育

ア 基礎的事項

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
2-43	子どもが緊張したり、不安を感じたりするときにはあたたかく受け止め、母親のようにやさしく接するなど、家庭的な雰囲気づくりに心がけていますか。			
2-44	あなたは、子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるように、いつも心を開いて、信頼関係をつくる努力をしていますか。			
2-45	子ども一人ひとりの背景や保護者の状況を理解し、受けとめて、安心して甘えられるように、その子の気持ちに寄り添い、支えていますか。			
2-46	あなたは、今まで大事に飼っていた小鳥などの小動物が死んだとき、子どもと悲しみを共有し、生命の大切さを伝えていますか。			
2-47	子どもが自己表現できるように、その時どきの要求や気持ちを読み取り、どの子ども自分が愛されていると実感できるように接していますか。			
2-48	子ども一人ひとりの必要に応じて、心も体もゆったりとくつろげるための空間と時間をつくり出す努力をしていますか。			
2-49	少しでもふだんと違う具合の悪そうな子どもに気づいたら、自分から体の不調を訴えられるように、やさしく問いかけていますか。			
2-50	日常生活でのしぐさをよく観察して、行動や身体の異常などの早期発見に努めていますか。			
2-51	季節感を味わえる環境を整えたり、心地よい音楽を流すなど、なごやかなにくつろいで過ごせる室内の環境づくりを心がけていますか。			
合計 9 項目		0	0	0

イ 健康

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
2-52	あなたは、「食育」の考え方を大切に、食事を「楽しく、おいしく」味わえるように、テーブルの配置や飾りつけなども工夫していますか。			
2-53	あなたは、子どもが、配膳の手伝いなど、食事に興味がもてるような機会を作れるようにしていますか。			
2-54	「食育」の活動の一環として、調理をしているところを子どもに見せたり、栄養士や調理員の話聞かせたりして、子どもが食材や食事に関心を持つようにしていますか。			
2-55	給食のメニューやレシピ、食に関する情報を保護者に知らせるなど、発育期にある子どもの食事の大切さに関心を持ってもらう努力をしていますか。			

2-56	天気の具合や活動の内容、程度に応じて、衣服の着脱、調整を子ども自らが考えられるように言葉をかけていますか。			
2-57	トイレに行くことをせかさせたり、強要したりせずに、一人ひとりの排泄の欲求に合わせるようにしていますか。			
2-58	おもらしをしたり、排泄の後始末がうまくいなくても、さりげなく対応し、自分でできるように個別の指導がなされていますか。			
2-59	子どもたちがよい快い疲労感を感じて昼寝に入れるよう、十分な遊びの場や時間を設けるようにしていますか。			
2-60	昼寝の時間以外でも、一人ひとりの状況に応じて、眠らせたり、身体を休ませるようにしていますか。			
2-61	清潔でいることは気持ちよいことと子どもが知るために、手洗い場、トイレなどをいつもきれいにしていますか。			
2-62	子どもが、いろいろな楽しさを味わうため、散歩など戸外に出かける機会を積極的に多く取り入れていますか。			
2-63	子どもが外で十分に体を動かして遊びに興ずることができるように、日頃から園庭や固定遊具の整備をしていますか。			
合計 12 項目		0	0	0

ウ 人間関係

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
2-64	「保育園の先生が好きだ」といった幸福感を味わえるために、子どもが充実できる活動や場を日頃から用意していますか。			
2-65	あなたは、子どもが嬉しい時や悲しい時、また困ったり戸惑ったりしたときに、それを伝えたい存在となっていますか。			
2-66	自己を表現する力や相手の言うことをきく姿勢がもてるよう、あなたはそれぞれの子どもの立場や気持ちをくみ取った仲立ちをしていますか。			
2-67	あなたは、その子の発達の段階を理解して働きかけながら、子どもがきまりや約束の大切さに気づき、それを守ろうとする態度を養うように努めていますか。			
2-68	遊びの中で子どもたちが自ら試行錯誤しながら作っていくルールを、大切に見守ることができますか。			
2-69	子どもたちのけんかやぶつかり合いを、友だちを知る機会や、社会性が育つ過程として受け止め、その育ちを見守ることができますか。			
2-70	一人ひとりの興味や発達に応じた取り組みをして、子どもたちが一緒に関わり合う喜びを味わう場や機会を用意できていますか。			
2-71	タテ割り保育などのとき、発達や生活経験の違いに着目して、それぞれの子どもがもっている課題を見いだすことができますか。			

2-72	高齢者や実習生、中・高生等を受け入れるときに、子どもたちがとまどいながらも楽しめるように援助し、人間関係を学ぶ機会としていますか。			
合計 9 項目		0	0	0

エ 環境

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
2-73	今日咲いた花、飛んできた鳥や虫など、それぞれの季節ならではの子どもの感動が、あなた自身のものとして受け止められていますか。			
2-74	庭や散歩で拾ってきた木の葉、木の実など、いろいろなものを比べたり調べたりして、自然の不思議さや面白さを子どもたちと共有するとともに、物の性質や数、量などに対する興味を育てていますか。			
2-75	春には花が咲き、冬には葉が落ちるなど自然の営みについての子どもの疑問に関わりやすく答えることができますか。			
2-76	子どもの質問や疑問に、すべて答えたり、すぐに回答を出すのではなく、実物を見せたり図鑑などで調べたりする誘いかけもしていますか。			
2-77	朝顔の栽培、オタマジャクシの飼育など身近な自然物からでも、動植物の成長の過程を子どもとともに楽しんでいますか。			
2-78	あなたは、最近の社会の出来事に目を向け、理解したうえで、子どもの興味、関心に沿うかたちでわかりやすく説明することができますか。			
2-79	地域の公共施設やそこで働く人々と子どもの生活とのかかわりについて、正しく伝えていますか。			
2-80	子どもが自由に取り出して遊べるよう、遊具、用具などの構成を整え、その量や補充について工夫していますか。			
合計 8 項目		0	0	0

オ 言葉

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
2-81	言葉は、コミュニケーションや思考、行動のために不可欠なものであることを認識し、幼児期に言葉を豊かに身に付けられるように努力していますか。			
2-82	子どもたちが、生活や遊びを通して、生きた言葉を多く自分のものできるように工夫していますか。			
2-83	日頃あなたは、声の大きさに気をつけ、わかりやすい、子どもへの心を込めた、あたたかな言葉づかいでゆっくり話すようにしていますか。			
2-84	子どもが登園したとき、いつもさわやかに挨拶をし、その時々に必要な言葉をかけるようにしていますか。			

2-85	絵本や童話を読み聞かせるときは、文章の美しさや言葉のリズムの面白さに気を配り、その物語性や、伝統のすばらしさを伝えるようにしていますか。			
2-86	紙芝居や絵本の読み聞かせで、子どもが感動したり想像力を膨らませるように、あなた自身もその内容を楽しんでいますか。			
2-87	子どもが話しかけてきたとき、その内容や結論が分かっていても、ゆっくり聞いて、会話したい気持ちを満たし、言葉で伝えあう場を大切にしていますか。			
2-88	あなたは、子どもの目を優しく見つめながら、気持ちを合わせ、その子の言葉だけではなく、目の動き、顔の表情、体全体のしぐさにも注意を払っていますか。			
2-89	子どもと一緒に美しい花を目にしたときなど、あなたは「きれいね」だけではなく、もっと多様な言葉でその感動を表現していますか。			
2-90	あなたは「早く～しなさい」「だめ」「いけません」などの指示、命令する言葉や禁止語をできるだけ使わないようにしていますか。			
2-91	子どもに言い聞かせるときには、問いつめたり、押し付けたりせず、子ども自ら考えるきっかけになるようなわかりやすい言葉づかいをしていますか。			
合 計 11 項 目		0	0	0

カ 表現

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
2-92	見たこと、感じたものに対して、言葉、絵、造形、からだ、音などその子が最も好きな、得意とする方法で表すことを大事にしていますか。			
2-93	あなたは、その子が感じたままを作品や動きなどで表現していることをくみ取ることができますか。			
2-94	あなたは、絵などの作品に、その子の喜びや悲しみ、驚きなどの感動を読み取ろうとしていますか。			
2-95	活動の場面に応じて、リズムやボリュームなどに配慮して子どもの耳に快く響く音を提供していますか。			
2-96	鈴、カスタネットなどのリズム楽器を活用し、子どもが音色やリズムの楽しさを満喫できるようにしていますか。			
2-97	友達との合奏が、一人で楽器を鳴らすこととは違った楽しさもあることを体験できるよう、あなたは盛り上げる役を果たしていますか。			
2-98	子どもが自分の作品を大切にされていると感じられるように、展示のしかたなどを工夫していますか。			
2-99	子どもが、いつでもすぐに使えるように、クレヨン、絵の具、粘土、紙などを手近に用意していますか。			
2-100	ハサミなど危険を伴う道具には、正しい使い方や後片づけのしかたを日常的に指導していますか。			

2-101	子どもたちの遊びに、身体を使った様々な表現遊びを多く取り入れていますか。			
合計 10 項目		0	0	0

(5) 特別な配慮や支援を必要とする子ども（障がい児）の保育

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
2-102	保育園は、障害を持つ子どもそうでない子ども「共生」「共有」の観点から、当たり前のこととして保育するという考え方にあなたは共感しますか。			
2-103	障害児が入園した時、安全管理や個別的対応などその子を受け入れるための保育を、積極的に進めようと考えていますか。			
2-104	障害児について素朴な疑問をなげかけてくる子に対して、必要に応じて障害の性質や行動の困難さなどについて、丁寧に説明していますか。			
2-105	あなたは、障害児もそうでない子ども互いのよさを感じとり、楽しく交流できる雰囲気づくりに励んでいますか。			
2-106	あなたは、障害児の世話をし過ぎる子どもや、逆に無関心な子どもの存在に気づき、それへの配慮を心がけていますか。			
2-107	あなたは園でのケース会議で積極的に議論することにより、園内の障害児への理解を深めるように努力していますか。			
2-108	あなたは、障害児により適切な保育をするために、様々な専門機関等と連携をしていますか。			
2-109	障害児の保護者が、様々な苦しみや悩みを抱えてきていることを、触れ合うなかで感じることはありませんか。			
2-110	日常的に障害児に保護者との話し合いの場等を設けて、不安や焦り等悩みを抱えている保護者の気持ちの援助に心がけていますか。			
2-111	就学に向けて相談する障害児の保護者に対して、保護者が自分で方向を決めていけるように相談に応じたり、情報提供をしたりしていますか。			
2-112	障害児を受け入れる園の方針を、健常児の保護者に理解してもらえるように努力していますか。			
2-113	障害児保育をより豊かなものにするために、子どもたちにふさわしい環境・物的環境（遊具等）を整えるなどの努力をしていますか。			
合計 12 項目		0	0	0

(5) 行事

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
2-114	あなたは、園が従来から続けてきた「行事」について、その意味について十分に考えてから、保育の中に組み込んでいますか。			
2-115	「行事」を保育に取り入れるときには、それが子どもの健やかな育ちにつながる意味をもつことを意識していますか。			
2-116	みんなで楽しむとともに、一人ひとりが十分に自分の力を発揮できるような「行事」となっていますか。			
2-117	あなたは、子ども達にとってその季節や時期にしか味わえない有意義な体験となるよう「行事」に工夫を凝らしていますか。			
2-118	子ども達が期待を持って「行事」に参加できるよう、年間計画の段階から子どもの主体性を尊重する保育場面を用意していますか。			
2-119	「行事」に参加することを嫌がる子どもには、その気持ちをくみ取って、行事の中でその子が活動できる場面を用意していますか。			
2-120	保護者が参観する「行事」のときには、保護者の評価にあまりとらわれず、日常の子どものありのままを見てもらう気持ちのゆとりをもっていますか。			
2-121	あなたは、「行事」が、子どもの生活や遊びから発展していくように、日常の保育の積み重ねの結果となるよう心がけていますか。			
2-122	保護者や地域住民にも参加してもらうような「行事」については、園だよりや広報紙等で事前にその趣旨を説明し、理解や協力を要請していますか。			
2-123	子どもも保護者も期待感を持つ「行事」には、あなた自らが喜んで、余裕をもって参加できていますか。			
合 計 10 項 目		0	0	0

(6) 延長保育・一時保育

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
2-124	長時間にわたる保育を受ける子どもには、特に畳やカーペットで寝転ぶことができるようにするなど、家庭的雰囲気に配慮していますか。			
2-125	次々にお迎えが来るなかで、「ママ来ないね」のつぶやきに対して、その子の気持ちを受け止めて、安定した気持ちで待つことができるような適切な対応をしていますか。			
2-126	あなたは延長保育で、一人ひとりが好きな遊びができるように配慮していますか。			
2-127	延長保育の子どもには、担任でなくても、園での様子が保護者に十分伝わるよう、連絡ノートやおたよりを活用していますか。			

2-128	延長保育の時間帯には、とりわけ異年齢の子ども同士で遊べるような工夫をしていますか。			
2-129	一時保育の申し出には、保護者の事情等の子どもの背景を十分に考慮しつつ、その子を受け入れることができますか。			
2-130	慣れないところに一時的に預けられる、子どもの不安な気持ちを考えて、予定しているにちあんを変更するなど柔軟な姿勢を持っていますか。			
2-131	一時保育で受け入れた子どもが、集団の中で遊べるよう、遊びを工夫したり、中立をしたりしていますか。			
2-132	一時保育で受け入れる子どもが安定できるよう、遊びの校内や遊具、教材などの準備に配慮していますか。			
2-133	一時保育や延長保育の子どもへの保護者に、緊急の連絡が取れるような手立てを確認していますか。			
合計 10 項目		0	0	0

3 保健活動・安全管理

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
3-1	身長・体重等の測定や医師の診断から、発育・発達の状態を把握して、それを保護者や他の職員に伝えとともに、日常の保育に生かしていますか。			
3-2	その子の体調の些細な変化や異常に速やかに対応するために、日常的な体調や機嫌の状態をつかむよう努めていますか。			
3-3	あなたは、子どもに何らかの異常が見つかった場合、より適切な処置ができるように、嘱託医の指導を受けるなど日頃から学習をしていますか。			
3-4	あなたは、健康観察で子どもの健康状態をある程度判断することができますか。			
3-5	子ども一人ひとりの体調をしっかりと把握し、食事の量や内容を変えるなどの配慮をしていますか。			
3-6	あなたは、睡眠中の子どもの顔色、呼吸の状態を観察するなど、SIDS等への予防に努めていますか。			
3-7	アトピー性皮膚炎・食物アレルギー等の子どもに対して、医師の指導のもとに適切な対応をしていますか。			
3-8	あなたは、日頃から虐待の早期発見を心がけ、虐待が疑われる場合には、園長に伝えるなどの防止策を考えていますか。			
3-9	備品棚やピアノなどの転倒防止、その他事故が起こらないように、あなたの保育室内外の安全点検を、毎日怠らないように努めていますか。			
3-10	園庭にガラスの破片など危険なものがないか調べたり、砂場を掘り起こして整えるなど、安全な環境づくりの努力をしていますか。			

3-11	地震等の災害や火災に備え、積極的に避難訓練等に参加し、非常災害時にあなたが何をしなければならないか理解していますか。			
3-12	登降園時の事故防止について、保護者が何を注意すればよいか、あなた自身が説明することができますか。			
3-13	そのまま見過ごしたら明らかに危険な行動には、理由を説明して「いけません」、「やめなさい」などの言葉ではっきりと制止していますか。			
3-14	不審者が侵入した場合に備えて、子どもの安全を確保するための対応策を日頃から心がけ、職員間で話し合っていますか。			
合計 14 項目		0	0	0

4 保護者・地域社会・関係機関との連携

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
4-1	園での様子を伝え家庭での様子を聞くなかで、子どもの育ちを保護者とともに、考え、喜び合うことができますか。			
4-2	その日の子どもの健康状態や興味を持った遊びなど、必要に応じてお迎え時に保護者に丁寧に伝えるように努めていますか。			
4-3	保護者から突然、お迎えが遅くなると連絡があった時にも、快く対応するよう努めていますか。			
4-4	保護者が育児の悩みや心配事を話してみたくなり、一緒に考えてくれる存在であると思えるよう、あなたはこちらからすすんで触れ合うことを心がけていますか。			
4-5	たとえあなたの保育に批判的な保護者であっても、対立せずに受容し、意見や要求を聞こうとする姿勢が持てますか。			
4-6	あなたは、保育に関する保護者の考えや提案を積極的に聞き、保育の流れの中で適切と思うものについては、園長等と話し合ったうえで受け入れるよう努めていますか。			
4-7	保育園が、保育参観だけでなく時には保護者に保育参加（保育に直接加わる）をしてもらう方針を決めた場合、協力できますか。			
4-8	あなたは、連絡帳を、保護者がその内容をよく理解でき、楽しみにするような書き方をしていますか。			
4-9	保護者同士が相談相手になれるよう、お互いをよく知り合う機会を多く設ける努力をしていますか。			
4-10	地域の人たちによるボランティア活動などをどのように保育に組み入れたらよいか職員間で話し合うとともに、あなた自身もきちんとした見通しを持っていますか。			
4-11	老人会、町内会など地域組織と連携するとき、保育士としてどういう役割を担うべきか、考えたことがありますか。			
4-12	放課後遊びに来る学童や卒園児にも、園の子どもと一緒に仲間に入って楽しく遊べるような配慮をしていますか。			

4-13	あなたは、保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、めんどうがらずに指導することができますか。			
4-14	散歩や行事などで、子どもたちが地域の人々と触れ合う機会を持つようにするとともに、気持ちよくあいさつをかわしていますか。			
4-15	地元の公共機関を利用するなど、地域の人々にかわいがられて、子ども達が豊富な社会体験を得られるようにしていますか。			
4-16	公園などの公共の場を使用した後は、あなたは子どもたちと一緒に清掃するなど、気を配っていますか。			
4-17	あなたは言葉が通じない外国人に、尻込みしないで身ぶり手ぶりやIT機器を利用して対応できますか。			
合計 17 項目		0	0	0

5 地域の子育て支援

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
5-1	あなたは、日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを自覚していますか。			
5-2	あなたは、保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的にかわりたいたいと考えていますか。			
5-3	あなたは、相談の基本原則（受容・相互信頼関係・個別性・自己決定・秘密保持）について理解し、子育て相談の実践に生かしたいと考えていますか。			
5-4	あなたは、本来業務の保育に支障がない限り、電話相談などの子育て支援を行いたいと思いますか。			
5-5	あなたは、子育て相談を実施する際に連携すべき機関等（保健センター・児童相談所・福祉事務所・医療機関等）の機能についてよく知っていますか。			
5-6	あなたは、子育てサークル・子育てボランティアの育成・支援に関心があり、勤務園が実施するときには、協力するつもりですか。			
5-7	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解していますか。			
合計 7 項目		0	0	0

6 保育園の職務・役割分担

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
6-1	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、あなたは質問をしたり意見を言ったりできますか。			

6-2	園長や主任などと意見が合わないとき、十分に話し合ったうえで、上司の指示に従うことができますか。			
6-3	登園を嫌がるが続くなど、問題を感じたとき、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策のしかたを相談していますか。			
6-4	あなたは、職員会議で必要と思う質問や意見をはっきり発言することができますか。			
6-5	職員会議等で自分の意見や考え方と違う結論が出た時も、それに従って気持ちよく協力し、実行できますか。			
6-6	栄養士など保育士以外の職種の人たちが保育にかかわるとき、その人たちへの気配りや協力関係に配慮するとともに、保育士としてのあなたの役割がなんであるか理解していますか。			
6-7	あなたは、保育士として、他の職種の職員やパートの人たちにどんな役割を果たしてほしいか、具体的な期待をもっていますか。			
6-8	あなたは、欠勤した日の出来事や連絡・注意事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか。			
6-9	あなたは、自分のクラスの教材や備品を、責任をもって毎日点検・管理していますか。			
6-10	あなたは、たとえ自分のクラスのものでなくても、教材・教具などの管理が不備であれば、自らすすんで整えることができますか。			
6-11	あなたの本来の業務以外に保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって引き受けていますか。			
合計 11 項目		0	0	0

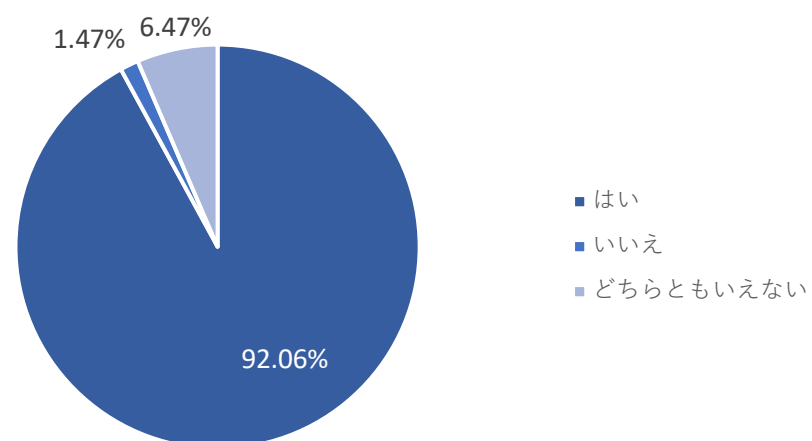
7 保育士としての資質向上（研修・研究活動）

番 号	内 容	は い	いいえ	どちらとも いえない
7-1	あなたは、保育士としての責務と誇りを自覚して、人間性と専門性の向上に努めていますか。			
7-2	あなたは、自分の保育を振り返り、問題点や課題を見つけることができますか。			
7-3	自分の保育に対する同僚や上司からの批評や意見を、感情的にならず謙虚に聞き、時には反省することができますか。			
7-4	保育をする中で生じた疑問や悩みを、同僚や上司にわかるように説明することができますか。			
7-5	あなたは、その日の子ども一人ひとりの活動や姿を、しっかり記録に留めることができますか。			

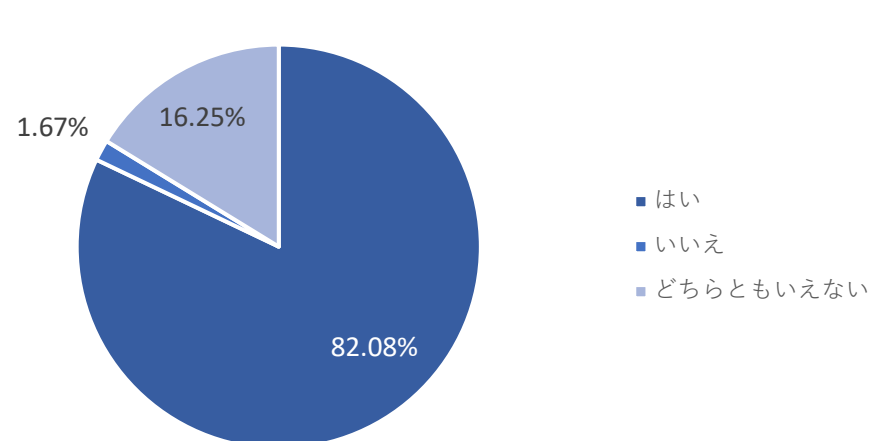
7-6	あなたは、どのような子どもについても、一人ひとりの課題をみつけ、ケーススタディーをすることができますか。			
7-7	あなたは、保育の悩みや疑問を解決するために、研究・専門書を見つけて、そこから学ぶことができますか。			
7-8	あなたは、他のクラスの保育について、疑問や感想・意見を、お互いの向上のために、言葉に配慮しながら素直に述べることができますか。			
7-9	あなたは研修で得た内容・成果は、園の職員にわかるように丁寧に説明し、意見交換をするために役立てていますか。			
7-10	あなたは、積極的に研究グループやサークルに参加して独自に勉強していますか。			
7-11	あなたは、研修会の機会があれば、自費でも参加したいと思いますか。			
7-12	あなたの保育実践について、園長はじめ他の職員が把握できる保育日誌などの記録書けていますか。			
合計 12 項目		0	0	0
合計		0	0	0

「保育内容等の自己評価」のためのチェックリスト 集計結果

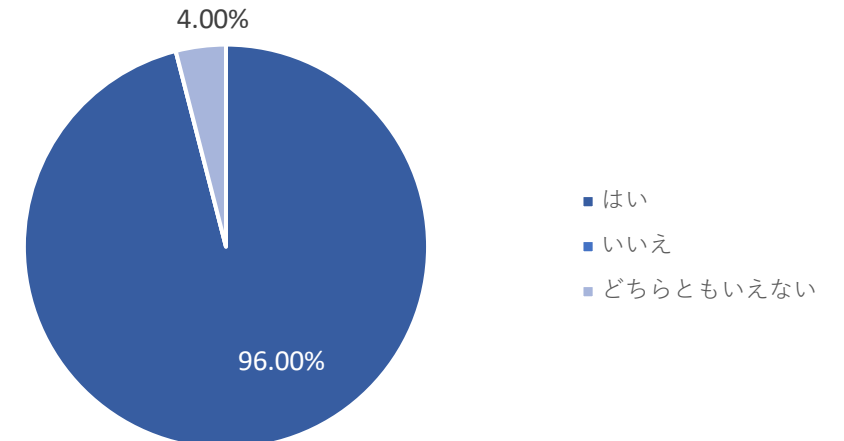
1 保育の理念、保育観



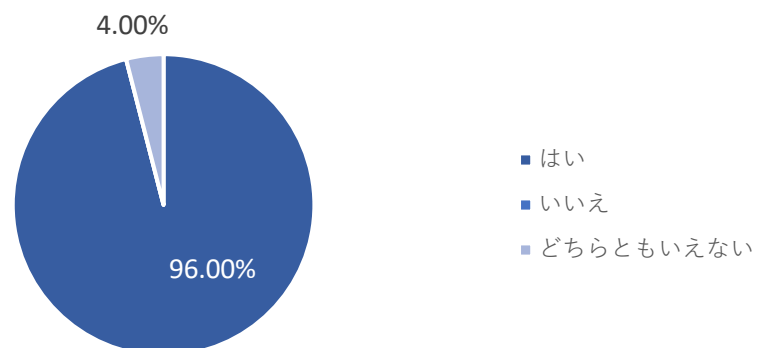
2 - (1) 保育計画・指導計画



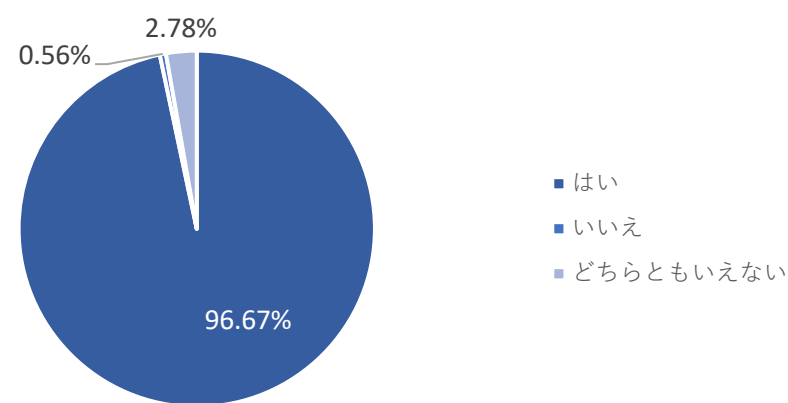
2 - (2) 乳児保育



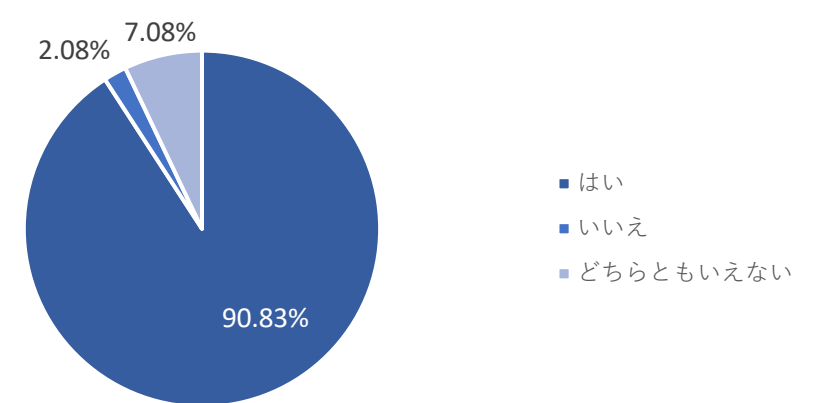
2 - (3) 3歳未満児保育
(1・2歳児保育)



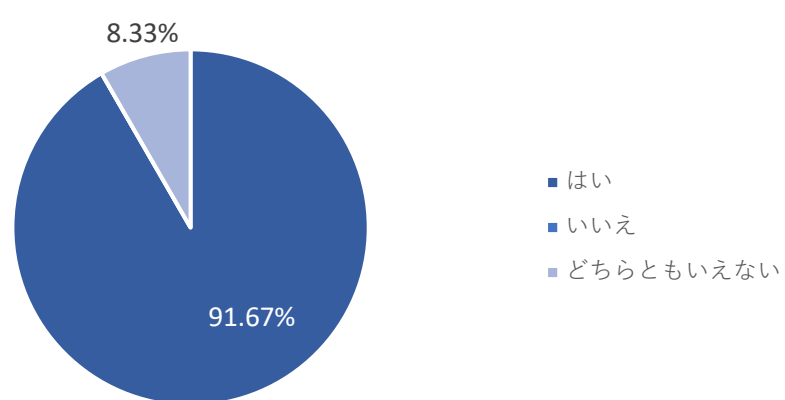
2 - (4) - ア基本的事項



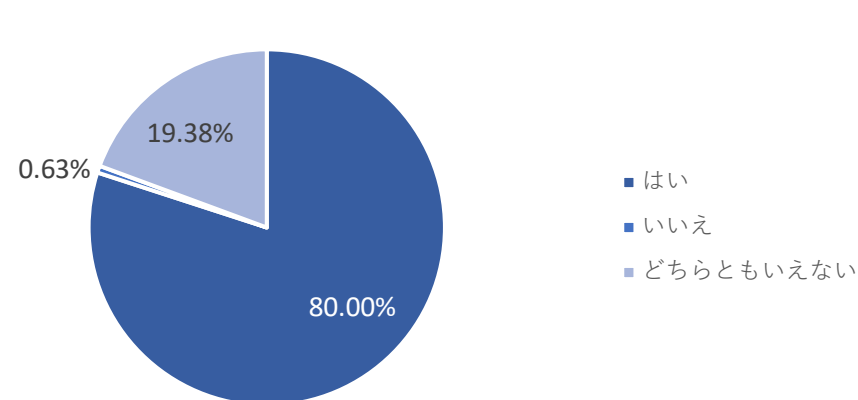
2 - (4) - イ健康



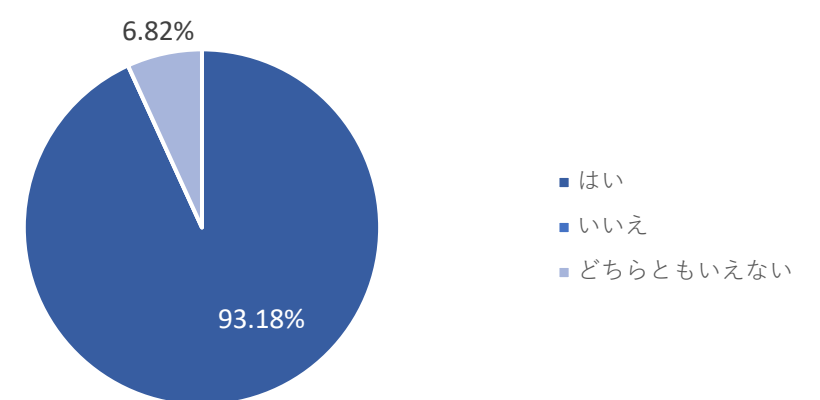
2 - (4) - ウ人間関係



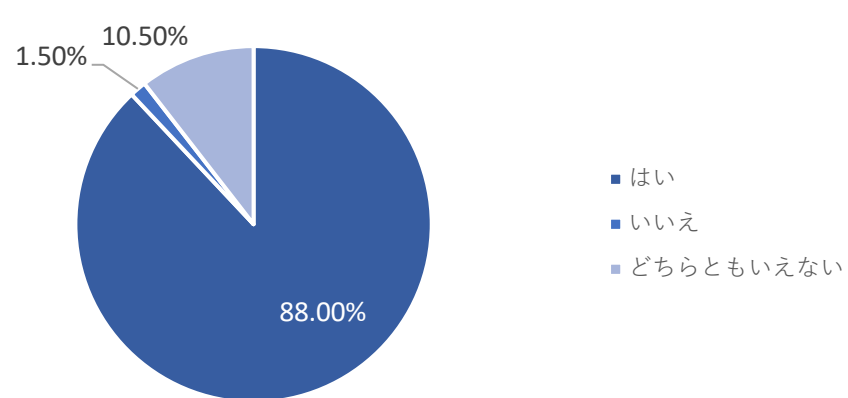
2 - (4) - エ環境



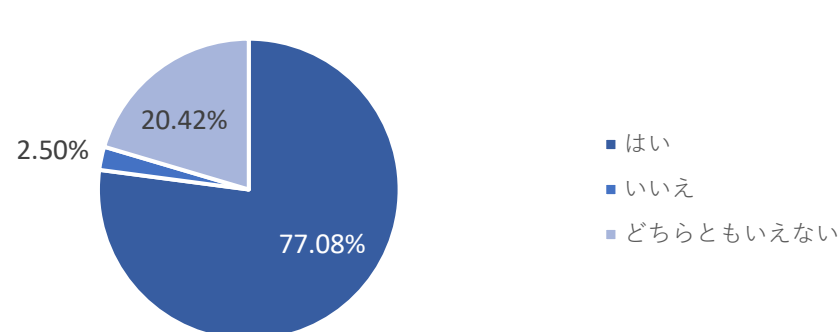
2 - (4) - オ言葉



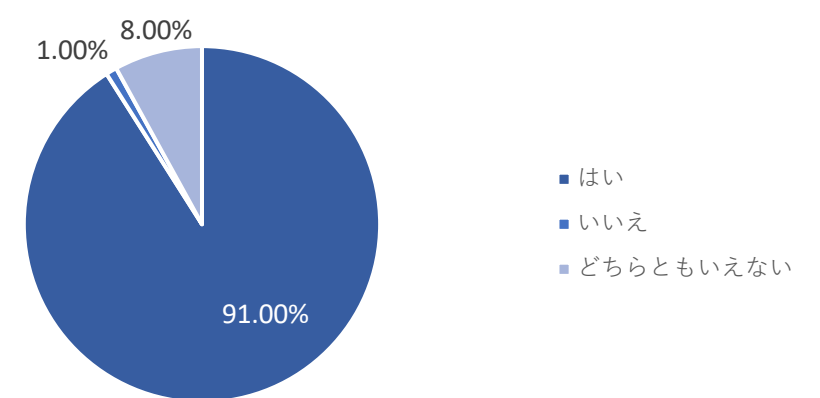
2 - (4) - カ表現



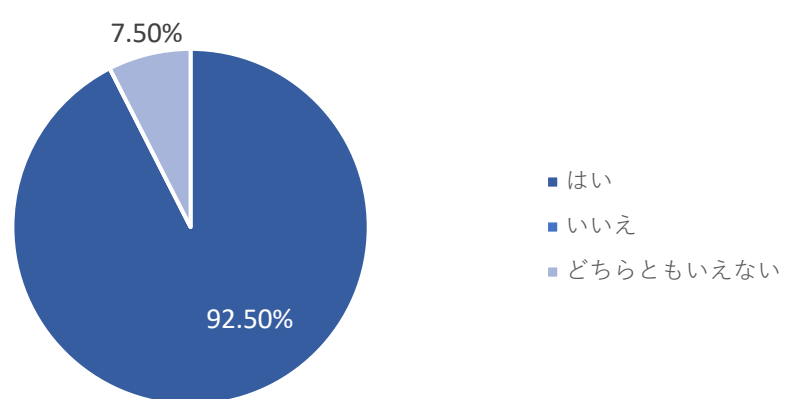
2 - (5) 特別な配慮や支援保育を必要とする子ども（障害児）の保育



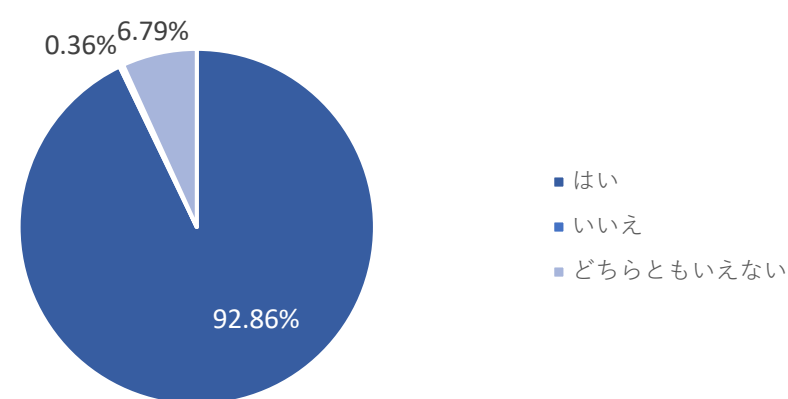
2 - (6) 行事



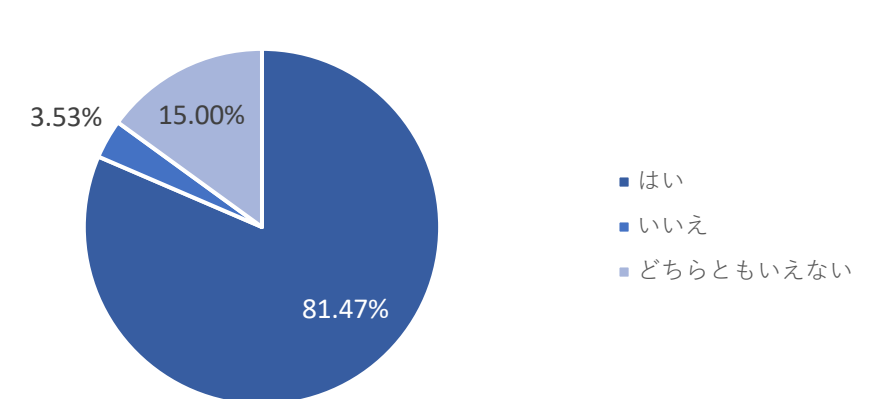
2 - (7) 延長保育・一時預かり保育



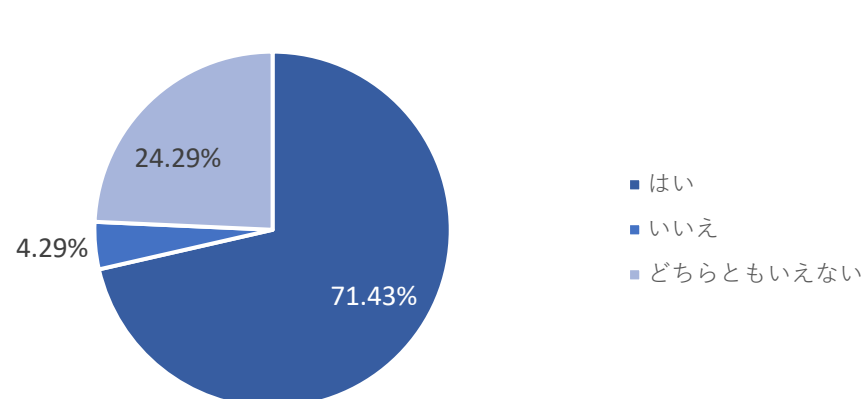
3 保健活動・安全管理



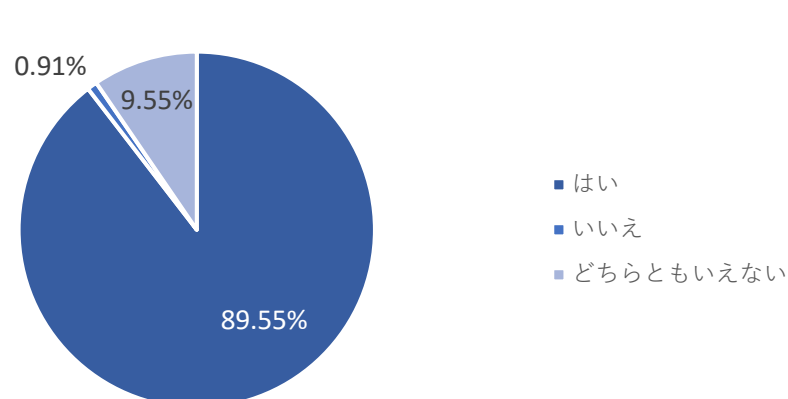
4 保護者・地域・関係機関との連携



5 地域の子育て支援



6 保育園の職務・役割分担



7 保育士としての資質向上（研修・研究活動）

